



平成21年度
全国体力・運動能力、運動習慣等
調査結果

大仙市分析結果

I 実施状況

1 調査の目的

- (1) 子どもの体力が低下している状況にかんがみ、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象とする児童生徒 小学校第5学年 中学校第2学年

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

①実技に関する調査

・小学校8種目

(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立幅とび、ソフトボール投げ)

・中学校8種目 ※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施

(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走(男子1500m、女子1000m)、20mシャトルラン、50m走、立幅とび、ハンドボール投げ)

②質問紙調査

・運動習慣、生活習慣、食習慣等に関する質問紙調査

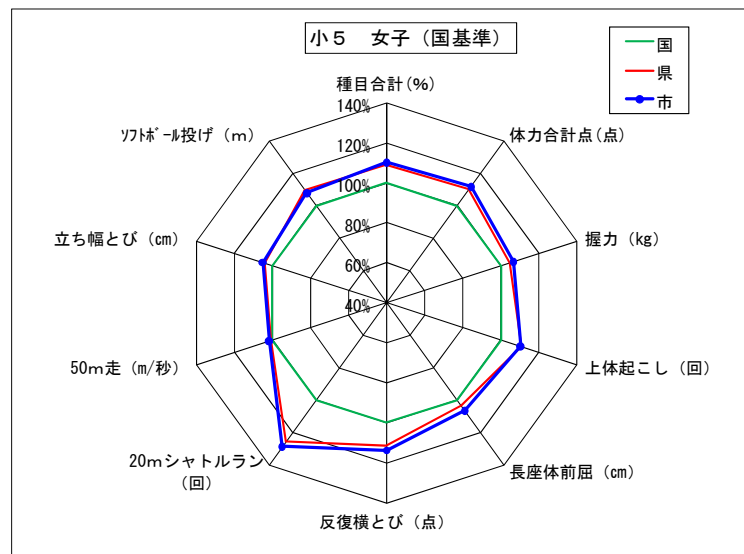
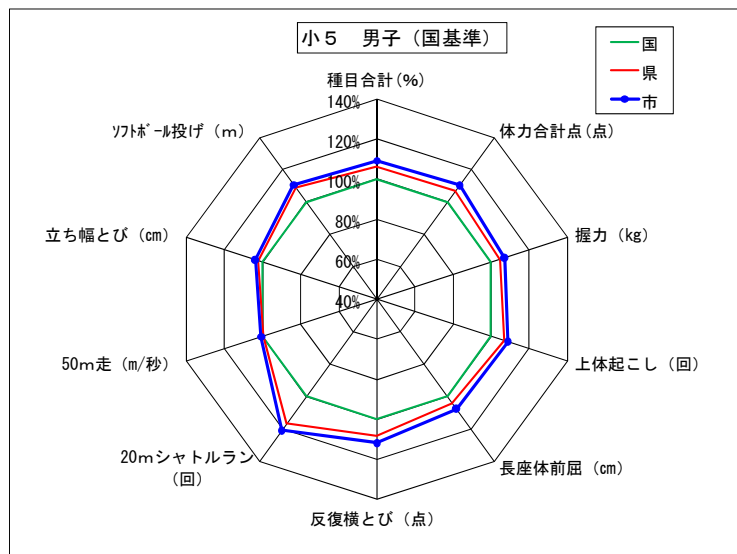
(2) 学校に対する調査

・学校における体育、保健体育の指導及び特別活動等に関する質問紙調査

Ⅱ 体力・運動能力調査の結果

1 小学校の状況

(体力合計点：実技の数値を得点化したもの(8種目=80点満点))
(国基準：全国平均を100%として比較)



○小学校5年男子

- ・全ての項目で国や県を上回っており、反復横とび、20mシャトルラン、ソフトボール投げで国を10%以上上回っている。本県が、全国1位だった上体起こし、反復横とび、ソフトボール投げにおいて、県を上回っている。

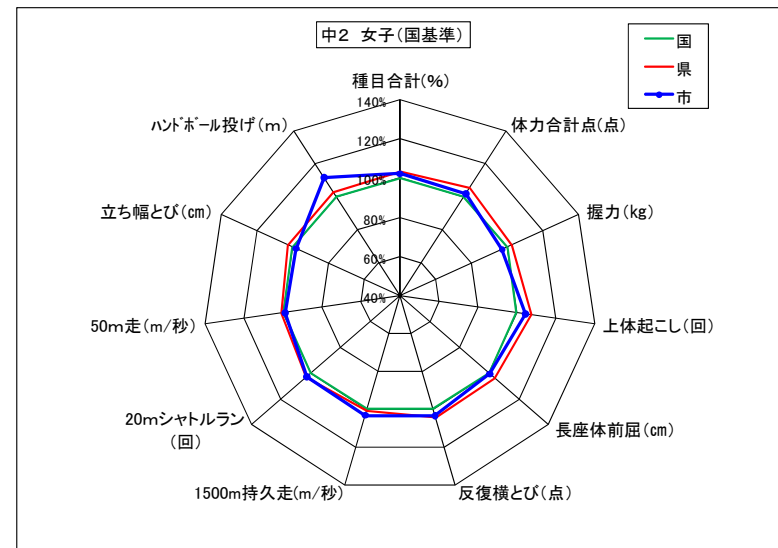
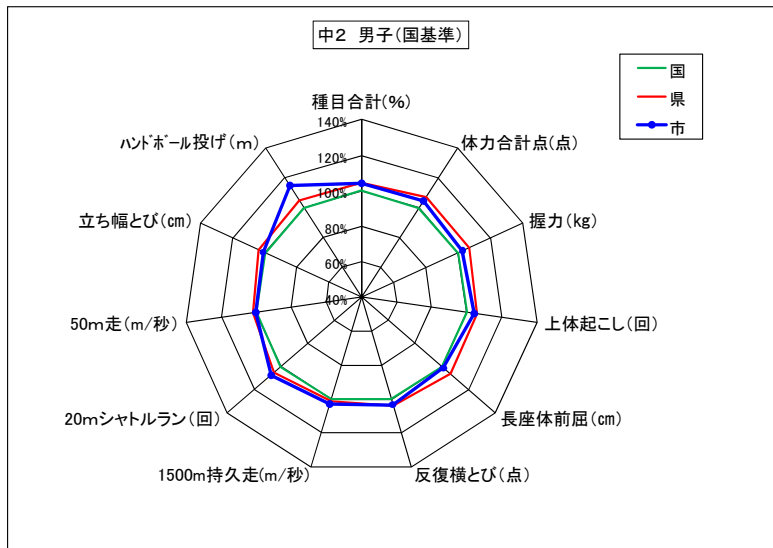
○小学校5年女子

- ・ほとんどの項目で国や県を上回っており、上体起こし、反復横とび、20mシャトルランで国を10%以上上回っている。

Ⅱ 体力・運動能力調査の結果

2 中学校の状況

(体力合計点：実技の数値を得点化したもの(8種目=80点満点))
(国基準：全国平均を100%として比較)



○中学校2年男子

- ・全ての項目で国を上回っており、ハンドボール投げで国を10%以上上回っている。

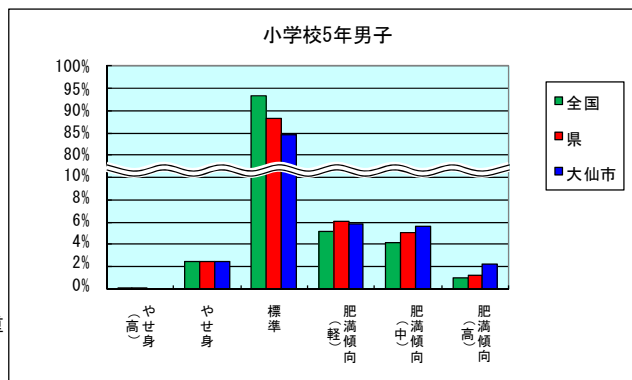
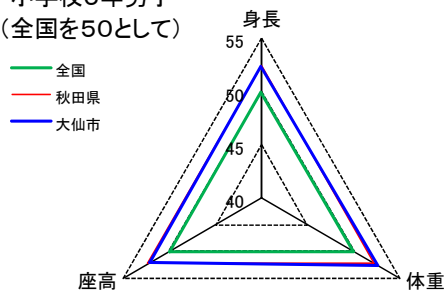
○中学校2年女子

- ・ほとんどの項目で国を上回っており、ハンドボール投げで国を10%以上上回っている。

Ⅲ 体格調査の結果

1 小学校の状況

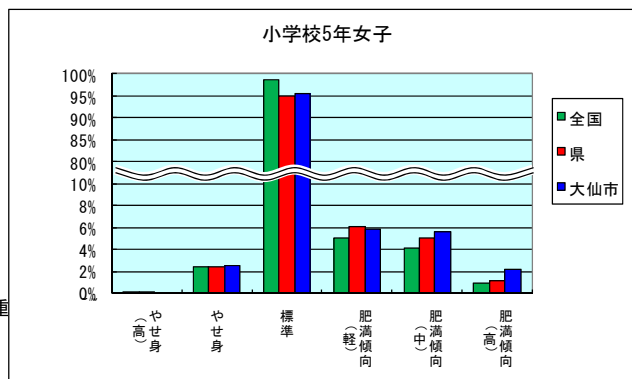
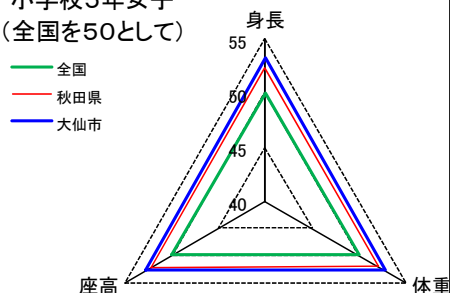
小学校5年男子
(全国を50として)



○小学校5年男子

- ・身長、体重、座高の全ての項目で全国を2割以上上回っている。
- ・痩身・肥満傾向出現率において、全国より標準が3割以上少なく、中・高度肥満が1割以上多い。

小学校5年女子
(全国を50として)



○小学校5年女子

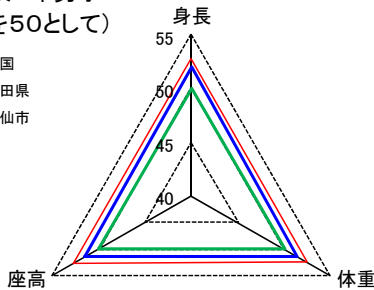
- ・身長、体重、座高の全ての項目で全国を2割以上上回っている。
- ・痩身・肥満傾向出現率において、全国より標準が1割以上少なく、軽・高度肥満が1割未満ではあるが、全国より多い。

Ⅲ 体格調査の結果

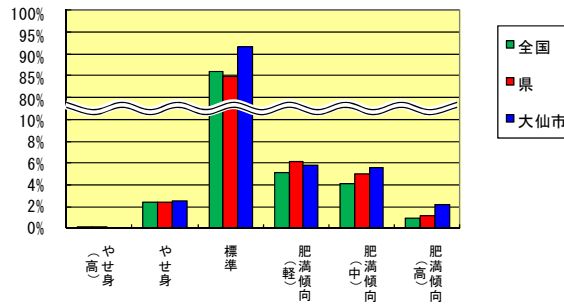
2 中学校の状況

中学校2年男子
(全国を50として)

— 全国
— 秋田県
— 大仙市

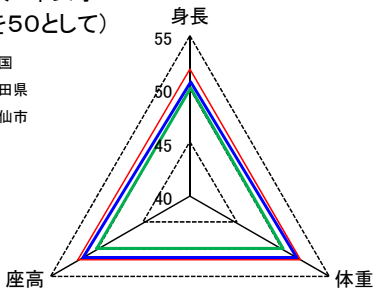


中学校2年男子

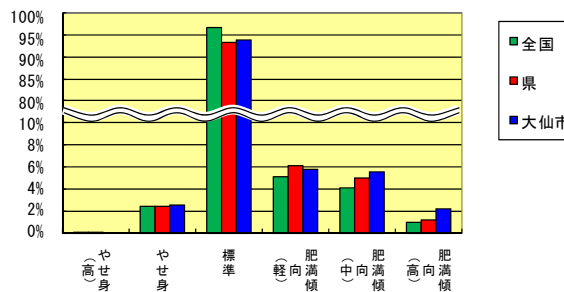


中学校2年女子
(全国を50として)

— 全国
— 秋田県
— 大仙市



中学校2年女子



○中学校2年男子

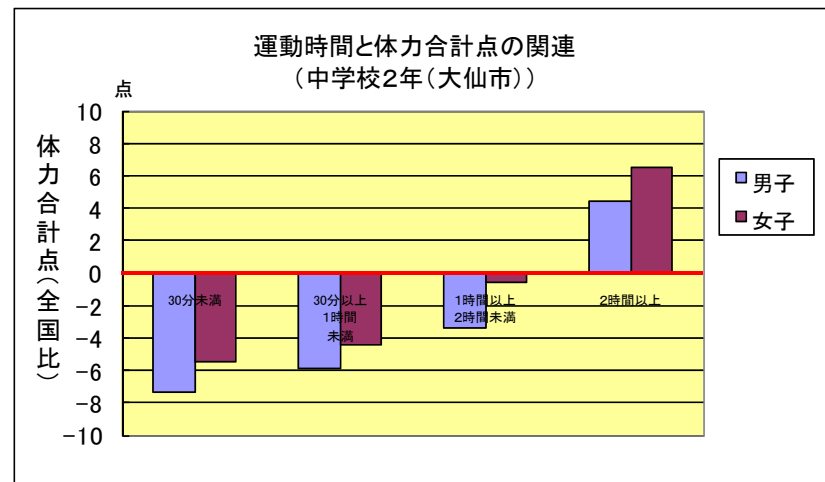
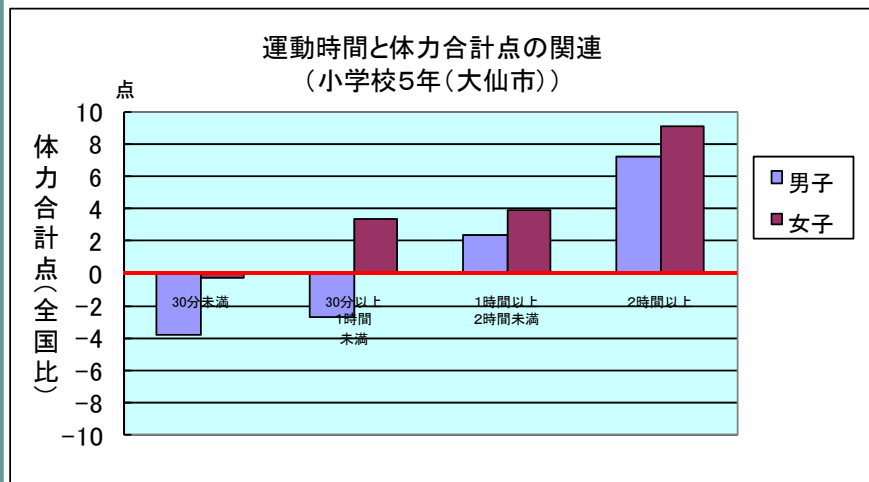
- ・身長、体重、座高の全ての項目で全国を1割以上上回っている。
- ・痩身・肥満傾向出現率において、全国より標準が2割以上多く、軽度肥満が2割以上少ない。

○中学校2年女子

- ・身長、体重、座高の全ての項目で全国を0.6割以上上回っている。
- ・痩身・肥満傾向出現率において、全国より標準が1割以上少なく、中等度肥満が2割以上全国より多い。

IV 運動習慣、体格と体力との関連

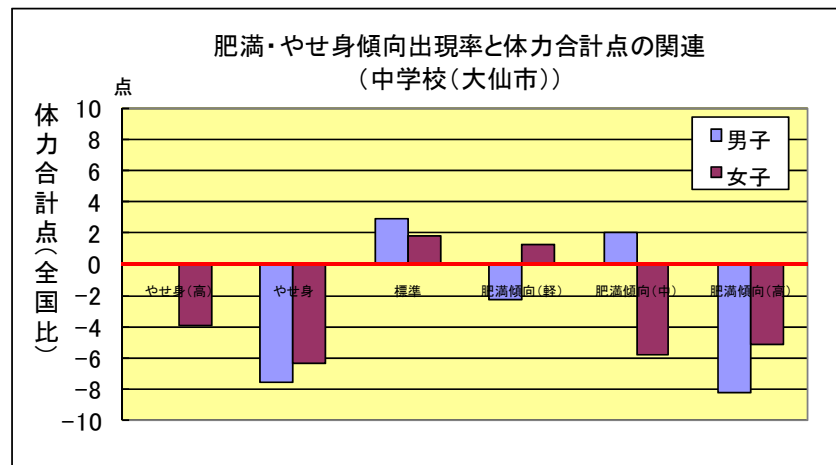
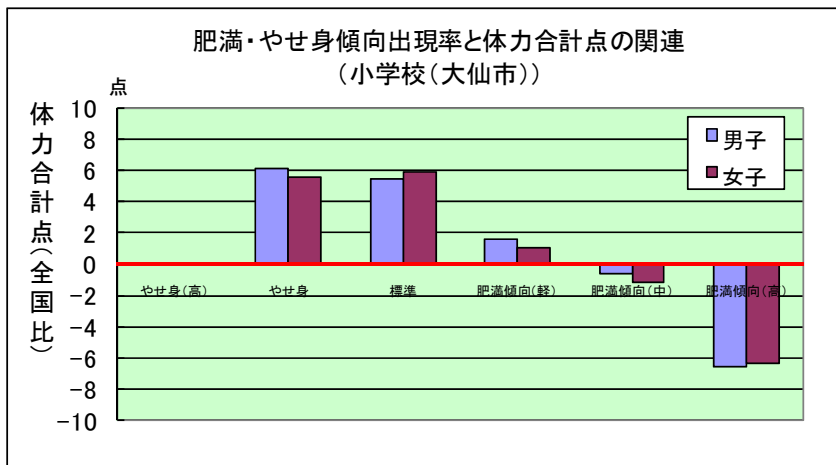
① 1日の運動時間と体力との関連



○ 1日の運動実施時間（体育を除く）が、2時間以上になると、小・中学校男女ともに体力合計点が顕著に高くなる。

IV 運動習慣、体格と体力との関連

② やせ身・肥満傾向と体力との関連

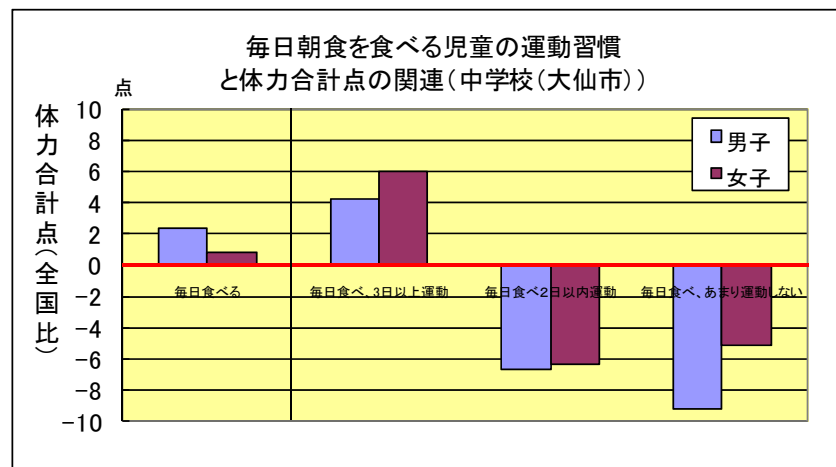
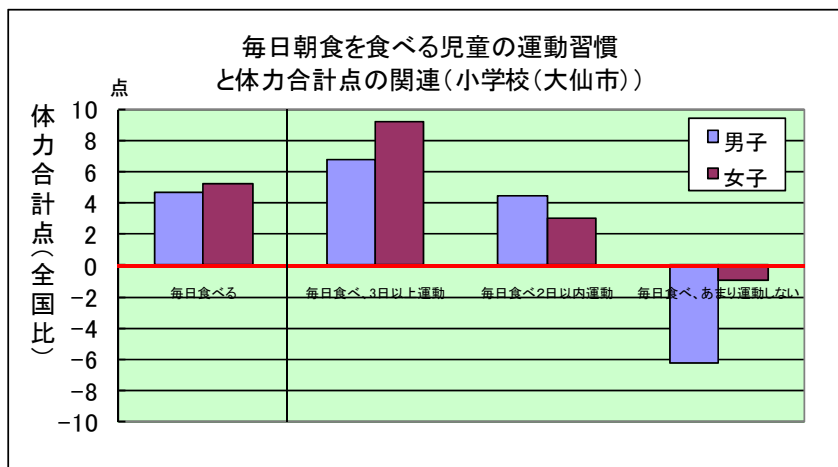


肥満傾向(高) (肥満度50%以上)、(中) (肥満度30~49.9%)、(軽) (肥満度20~29.9%)
標準 (肥満度-19.9~19.9%)、やせ身 (肥満度-29.9~-20%)、やせ身(高) (肥満度-30%以下)

- 小学校では、男女ともにやせ身、標準、肥満傾向(軽)の児童が体力合計点が高く、全国平均を上回っている。
- 中学校では、男子が標準、肥満傾向(中)の生徒、女子では標準、肥満傾向(軽)の生徒が体力合計点が高く、全国平均を上回っている。
- ◎小中男女ともに、標準の児童生徒が全国平均を上回っている。

IV 運動習慣、体格と体力との関連

③ 毎日朝食を食べる児童生徒の運動習慣と体力合計点の関連



○ 毎日朝食を食べ、さらに週3日以上運動している児童生徒の方が体力合計点も高く、全国平均を大きく上回っている。

V 考察

1 本市の傾向

<体力・運動能力調査>

- 体力・運動能力において小中、男女ともにほとんどの項目で全国を上回っている。
- ◎ 小学校5年男子では、本県が全国1位だった上体起こし、反復横とび、ソフトボール投げにおいて、県を上回っている。
- ◎ 小学校男女とも、反復横とび、20mシャトルランで10%以上全国を上回っている。
- ◎ 中学校男女とも、ハンドボール投げで10%以上全国を上回っている。

<体格調査>

- 小学校では、男女ともにT得点（全国平均値に対する相対的位置を示す）において、身長、体重、座高全ての項目で2%以上全国を上回っている。
- 中学校も同様に男女ともに、全ての項目で0.6%以上全国を上回っている。
- △ 肥満傾向出現率においては、中学校2年男子を除いて、標準が全国より1%以上下回り、肥満傾向の児童生徒が若干全国より多い。

2 改善に向けて《やせ身や肥満傾向改善のために》

※ 運動習慣確立のための継続的な取組の実施

- 業間運動や放課後持久走などを継続的に行い、運動を習慣化する場と時間を設定するなど全校体制の取組を実施する。

※ 食習慣・生活習慣確立のための継続的な取組の実施

- 食育や授業などをとおして生活を見直し、正しい食習慣や基本的な生活習慣を確立させる取組を実施する。（連絡帳、ノートを活用）
- 保護者・地域と連携して子どもの正しい食習慣や生活習慣の確立を図る。